



## 家まもりネットワークにおけるウッドワンの役割と7つの支援内容

### 1. ウッドワン・カスタマーサービス担当が家まもりを強力に推進(図中⑥)

- ・ 毎年の家まもりアドバイスと住宅履歴保管・利用支援
- ・ 5年毎の定期点検と実施記録保管(認定工務店と同行)
- ・ 現地収集した建物・住まい手情報に基づき、タイムリーに修繕・リフォーム提案(認定工務店と連携発信)

### 2. 長期にわたる維持管理計画とその実効性をウッドワンが担保する仕組み(図中②⑤)

- ・ 住宅性能評価に基づいた長期にわたる維持管理計画に、住まい手の家まもりプログラムを組み込み、『代々長持ち住宅 長期維持管理計画・維持管理ガイドライン』を策定
- ・ 上記に基づいた実践書式を作成。ウッドワンはその実施チェックと住宅履歴情報管理を行う。

### 3. 修繕費用目安の提示と修繕費用積立制度(図中⑨)

#### ◆修繕費用目安の幅を持たせた提示

長期維持管理計画に基づき修繕費用目安を住まい手の住戸毎に提示。必要費用は、まめに修繕を行う場合と最低限の修繕を行う場合と幅を持って提示し、住まい手はこの間で費用を準備。

#### ◆修繕費用積立制度

修繕計画の実効性を高めるために修繕費用積立制度を導入。積立は保険(積立型家財保険、生命保険等)、銀行定期預金を組み合わせを行い、月額積立金額が住まい手に負担の少ない額となるよう設定し、計画的かつ確実に修繕費用を確保する。

### 4. 代々長持ち住宅\_家カルテによる情報の一括管理(従来の第三者機関へのデータ保管と併用)

- ・ 散在しがちな住まいに関わる資料・情報を『代々長持ち住宅\_家カルテ』としてひとまとめにして提供。専用保管場所を住宅内に設定。修繕履歴情報も綴り込み紙媒体でも残す。

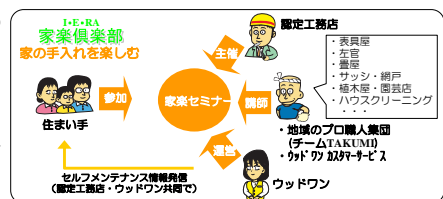
### 5. 全ての電子データの一元管理(図中⑦)

- ・ 意匠設計・構造設計・積算・プレカット・工程管理までをデータ連動させ各工程間の情報整合性を確保する。また、詳細積算データに基づく部品レベルの明細データを履歴保存し、維持管理での活用を容易とする。これに引渡後の維持管理情報も加え一元管理していく。

### 6. 住まい手の家まもりの普及啓発促進 - 家楽セミナーの活用(図中①④)

地域の認定工務店と共同で、地域のプロ職人集団・ウッドワンCSによる『チーム TAKUMI』を結成し、長期点検・メンテナンス体制の整備と共に、住まい手自らも維持保全に参画できる環境を構築。

- ・ 全国42箇所のWAS200情報プラザにて認定工務店主催の『家楽セミナー』を開催(テーマによっては現地開催)。
- ・ 住まい手が出来る仕事と職人専門の仕事とを明確化し、自ら出来る仕事を直接『チーム TAKUMI』から学ぶことにより、セルフメンテナンスへ誘導。



### 7. 認定工務店制度による継続的な維持保全の担保(図中②)

- ・ 認定工務店が維持保全を遂行できない場合、同一エリアの他の認定工務店が維持保全を継続。

#### ■提案者からのコメント

ウッドワンは、長期に住まい続けるための住宅部材や構法の開発・供給のみならず、ソフト面(申請図書作成支援、構造設計、積算支援等)でも一貫して地域工務店のサポートを行ってきました。今後も地域工務店と共に長期優良住宅の普及に貢献していきます。